

伊良湖本線・支線の利用実績について

資料 1

路線名	系統名	補助主体	利用者数 (R5.10～R6.9)			輸送量実績(人)				
			目標(人)	実績(人)	評価※	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
伊良湖支線	福祉センター保美	国・県・田原市	35,164	47,245	A	21.3	17.8	15.2	19.4	20.2
伊良湖本線	渥美病院休暇村明神	国・県・田原市	59,878	64,170	A	14.5	31.5	26.0	26.7	29.1
	豊橋保美	国・県・田原市・豊橋市	58,266	81,486	A	27.6	23.2	18.9	22.9	24.4
	渥美病院田原駅前保美	国・田原市	50,670	53,344	A	48.2	34.3	25.5	27.6	27.6
	渥美支所保美	田原市	—	73	—	0.6	0.1	0.1	0.0	0.0
	伊良湖岬保美		—	1,715	—	—	0.0	1.4	0.2	1.0

※評価の基準

- A : 年間目標利用者数を達成できた場合
- B1: 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合
- B2: 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合
- C : 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合

【現況】

伊良湖本線・支線とも目標利用者数を達成しており、対前年比も利用者が増加している。

【要因】

伊良湖本線・支線とも定期外利用者が対前年比約15%増加しており、高齢者の通院や外国人住民の買い物利用が増加要因のひとつと考えられる。

【今後の取組】

- ・伊良湖支線を「菜の花ガーデン」まで延伸し、観光客の利便性向上を図る。
- ・令和7年3月中旬に導入予定の交通系ICカードのポスター及びチラシ等を作成し、PRする。
- ・サイクルラックバス実証実験の実施。

令和6年度補助系統別事業評価票（伊良湖支線（福祉C堀切）線）

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖支線(福祉C堀切)	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	渥美病院～保美	29.0 km	8.1 回	田原市(旧渥美町) 0 0 0
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)

<接続する系統>

豊橋鉄道渥美線

<接続される系統>

田原市ぐるりんバス(③市街地線、④童浦線、⑤サンテパルク線)、田原市ぐるりんミニバス(⑥表浜線、⑦中山線)

模式図(△□)

2. R6年度の運行状況

事業実施の適切性		《参考数値》 主要指標の推移(△)						
計画どおり運行されたか(△)								
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由	年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	
A	補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。	年間利用者数【人】		48,861	40,554	34,370	45,209	47,245
		平均乗車密度(実績)		2.6	2.2	1.9	2.4	2.5
		輸送量	(計画)	23.3	29.0	21.0	17.8	13.7
			(実績)	21.3	17.8	15.2	19.2	20.2
		収支率(実績)		35.3%	30.5%	25.3%	30.2%	31.8%

目標・効果達成状況						
評価	目標の達成状況(Δ)		運営主体の所見、理由分析、認識(Δ)			
A	目標	35,164	利用者数は対目標値134.4%、対前年104.5%となった。コロナ禍以前の水準には戻っていないものの、対前年を上回った要因として、定期外利用者が増加しており、高齢者の通院や外国人住民等の買い物での利用者が増加したと考えられる。			
	実績	47,245				
	達成率	134.4%				
	要因	定期外利用者の増加。	市町村の所見、理由分析、認識(□)			
			市町村名:	田原市(旧渥美町)	市町村名:	0
運行事業者の所見等(Δ)			新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が大きく減少していたが、通院や買い物利用の高齢者や外国人住民等の定期外利用者が戻ってきている。近年、増加傾向であるがコロナ禍以前には戻っていない。人口減少等の影響で朝夕の学生利用は引き続き減少傾向にあると考える。			
			市町村名:	0	市町村名:	0

複数市町村を跨ぐ系統としての役割					
指標(市町村を跨いでの利用)		利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)		
市町村を跨ぐ利用者数(△)	3,960 人/月	旧町を跨いでの利用が利用者のほとんどを占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や成章高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。	市町村名: 田原市(旧渥美町)	市町村名: 0	市町村名: 0
全利用者に占める率(△)	87.7 %		・朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。 ・日中は高齢者の渥美病院等への通院や外国人住民の田原市街地での買い物で利用されている。		
特記事項	合併前の田原町、赤羽根町、渥美町を跨ぐ利用者と率。推定値。				

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)

3. R6年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
A	事業評価を踏まえた取組	・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシの作成。 ・観光客向けに、便利でお得な企画切符(デジタルチケット)の造成	市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0
改善点とした事項(△)			・地域公共交通計画改定 ・市内高校生への通学定期券の購入助成を継続実施 ・多言語チラシ作成(3か国追加計5か国語) ・観光地(菜の花ガーデン)への路線延長の検討			
関係者の連携等(△□)	その他の取組	東三河地域公共交通活性化協議会と連携し、夏休み小学生50円バスと「公共交通をつかったオリジナルツアー大募集」などを実施。	・パンフレットの作成、配布(全戸配布用・学生用) ・福祉回数券等の交付 ・免許返納者へ豊鉄バス元気バス(1年)引換券の交付 ・東三河地域公共交通活性化協議会連携事業実施 ・広報紙・イベント等でPR			
必要な情報交換を実施。						

4. 今後の課題

課題と認識している事項						
運営主体(△)		沿線市町村(□)				
この路線は、通学利用者が多くを占めており、沿線にある高校の学生数が減少しているため、年々、利用者が減少傾向になっていると感じている。バスでお出かけしていただけるようなPRが必要。		市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0	
		・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いと運賃が高額。 ・今後、1日当たりの輸送量が15人未満になる可能性のある路線である。				
運行事業者(△)						

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組						
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)				
R7年度、R8年度に行う取組	・観光客向けに、便利でお得な企画切符の造成 ・周辺観光地への延伸(R7.2～3月の土日祝) ・令和7年3月に導入予定の交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る。	市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0	
		・市内高校生への通学定期券購入助成(令和元年9月～)を継続して実施する。助成額等を再検討する。 ・中学生・高校生対象の利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。 ・期間限定の観光地までの路線延伸 ・サイクルラックバス実証実験の実施 ・支線沿いの地域住民等と意見交換				

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助システムの目標と評価

	沿線市町村(□)			
目標	市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0
	伊良湖支線の利用者数 R15:5.2万人(基準値R4:3.4万人)			
自己評価	基準値の令和4年より上回っているが、目標までは達していない。			

7.補助システムに接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)			
市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0
渥美病院・田原駅・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、令和5年度の利用者実績は100,998人となっている。			

通信欄	(この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)
※マクロを用いて集計しますので、セルの結合は絶対に変えないでください	

1. 補助システムの概要(△)

系統名		運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖本線(渥美病院休暇村明神)		豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	渥美病院～伊良湖岬	33.2 km	10.4 回	田原市(旧渥美町) 0 0 0
細系統	休暇村	〃	〃	渥美病院～伊良湖岬	33.2 km	5.9 回	
	中里	〃	〃	渥美病院～伊良湖岬	29.8 km	4.4 回	
					km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)

＜接続する系統＞

豊橋鉄道渥美線

＜接続される系統＞

田原市ぐるりんバス (③市街地線、④童浦線、⑤サンデパルク線)、田原市ぐるりんミニバス (⑥表浜線、⑦中山線)

模式図(△□)

2. R6年度の運行状況

事業実施の適切性		《参考数値》 主要指標の推移(△)						
計画どおり運行されたか(△)		評価の基準<事業実施の適切性> A: 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合 B: 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休（一部区間の運休を含む）が生じた場合						
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由							
A	補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。	評価の基準<目標・効果達成状況> A: 年間目標利用者数を達成できた場合 B1: 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合 B2: 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合 C: 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合						
		年間利用者数【人】	34,562	78,301	58,525	60,792	64,170	
		平均乗車密度(実績)	3.3	3.0	2.5	2.6	2.8	
		輸送量	(計画)	20.2	19.8	35.7	31.5	24.1
			(実績)	14.5	31.5	26.0	26.7	29.1
収支率(実績)	45.2%	40.9%	32.1%	31.9%	35.7%			

目標・効果達成状況				
評価	目標の達成状況(△)		運営主体の所見、理由分析、認識(△)	
A	目標	59,878	利用者数は対目標値107.2%、対前年105.6%となった。他系統も含めた伊良湖本線全体では、前年に対して定期は110.2%、定期外は119.5%となり、定期外利用者が約2割増加していることから、通院や買い物等の普段使いの利用者が増加したと考えられる。	
	実績	64,170		
	達成率	107.2%		
	要因	定期外利用者の増加。		
運行事業者の所見等(△)			市町村の所見、理由分析、認識(□)	
			市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0
			新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が大きく減少していたが、通院や買い物利用の高齢者や外国人住民等の定期外利用者が戻ってきている。近年、増加傾向であるがコロナ禍以前には戻っていない。人口減少等の影響で朝夕の学生利用は引き続き減少傾向にあると考える。	
			市町村名：0	市町村名：0

複数市町村を跨ぐ系統としての役割						
指標(市町村を跨いでの利用)		利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)			
市町村を跨ぐ利用者数(△)	5,310 人/月	旧町を跨いでの利用が利用者のほとんどを占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や成章高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。	市町村名: 田原市(旧渥美町)	市町村名: 0	市町村名: 0	市町村名: 0
全利用者に占める率(△)	82.1 %		・朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。 ・日中は高齢者の渥美病院等への通院や外国人住民の田原市街地での買い物で利用されている。			
特記事項	合併前の田原町、赤羽根町、渥美町を跨ぐ利用者と率。推定値。					

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)

3. R6年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
B	事業評価を踏まえた取組	・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシの作成。 ・観光客向けに、便利でお得な企画切符(デジタルチケット)の造成	市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0
改善点とした事項(△)			・地域公共交通計画改定 ・市内高校生への通学定期券の購入助成を継続実施 ・多言語チラシ作成(3か国追加 計5か国語)			
関係者の連携等(△□)	その他の取組	東三河地域公共交通活性化協議会と連携し、夏休み小学生50円バスと「公共交通をつかったオリジナルツアー大募集」などを実施。	・パンフレットの作成、配布(全戸配布用・学生用) ・福祉回数券等の交付 ・免許返納者へ豊鉄バス元気バス(1年)引換券の交付 ・東三河地域公共交通活性化協議会連携事業実施 ・広報紙・イベント等でPR			
必要な情報交換を実施。						

4. 今後の課題

課題と認識している事項						
運営主体(△)		沿線市町村(□)				
この路線は、通学利用者が多くを占めており、沿線にある高校の学生数が減少しているため、年々、利用者が減少傾向になっていると感じている。バスでお出かけしていただけるようなPRが必要。		市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0	
		・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いため運賃が高額。				
運行事業者(△)						

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組						
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)				
R7年度、R8年度に行う取組	・観光客向けに、便利でお得な企画切符の造成 ・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシや利用促進パンフレットの配布 ・令和7年3月に導入予定の交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る。	市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0	
		・市内高校生への通学定期券購入助成(令和元年9月～)を継続して実施する。助成額等を再検討する。 ・中学生・高校生対象の利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。 ・サイクルラックバス実証実験の実施				

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助システムの目標と評価

	沿線市町村(□)			
目標	市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0
自己評価	伊良湖本線の利用者数R15:23.2万人(基準値R4:16.7万 基準値の令和4年より上回っているが、目標までは達していない。			

7.補助システムに接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)			
市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0
渥美病院・田原駅・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、令和5年度の利用者実績は100,998人となっている。			

通信欄	(この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)
※マクロを用いて集計しますので、セルの結合は絶対に変えないでください	

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖本線（豊橋保美）	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	豊橋駅前～保美	40.6 km	7.9 回	豊橋市 田原市(旧渥美町) 0 0
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)

<接続する系統>

名古屋鉄道、豊橋鉄道渥美線
豊鉄バス(新豊線、豊川線)

<接続される系統>

豊鉄バス(豊橋市内路線)、豊橋コミバス(①しおかぜバス、②かわきたバス)、田原市ぐるりんバス(③市街地線、④童浦線、⑤サンデパルク線)、田原市ぐるりんミニバス(⑥表浜線、⑦中山線)

模式図(△□)

2. R6年度の運行状況

事業実施の適切性

計画どおり運行されたか(△)

評価 計画どおりか。そうでない場合は理由

A 補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。

評価の基準<事業実施の適切性>

A: 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合
B: 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合

評価の基準<目標・効果達成状況>

A: 年間目標利用者数を達成できた場合
B1: 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合
B2: 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合
C: 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合

《参考数値》 主要指標の推移(△)

年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
年間利用者数【人】	108,272	77,037	56,949	73,229	81,486
平均乗車密度(実績)	3.5	2.9	2.4	2.9	3.1
輸送量	(計画) 29.6	32.0	26.4	23.2	18.4
	(実績) 27.6	23.2	18.9	22.9	24.4
収支率(実績)	40.1%	35.8%	28.5%	32.1%	34.6%

目標・効果達成状況

評価 目標の達成状況(△)

A 目標 58,266
実績 81,486
達成率 139.9%

要因 定期外利用者の増加。

運営主体の所見、理由分析、認識(△)

利用者は対目標値139.9%、対前年111.3%となった。他系統も含めた伊良湖本線全体では、前年に対して定期は110.2%、定期外は119.5%となり、定期外利用者が約2割増加していることから、通院や買い物等の普段使いの利用者が増加したと考えられる。

市町村の所見、理由分析、認識(□)

市町村名: 豊橋市 市町村名: 田原市(旧渥美町)

本路線は豊橋駅前～藤沢町付近において、本市の公共交通幹線軸としての役割を担っており、もともと通勤・通学の利用が多かったが、それ以上に通院・買い物等の普段使いによる定期外利用の増加が大きな要因であった。

市町村名: 0 市町村名: 0

複数市町村を跨ぐ系統としての役割

指標(市町村を跨いでの利用) 利用状況及び所見(△) 住民の利用状況(□)

市町村を跨ぐ利用者数(△) 3,660 人/月 市町村名: 豊橋市 市町村名: 田原市(旧渥美町) 市町村名: 0 市町村名: 0

全利用者に占める率(△) 49.6 % 主に豊橋市内で完結する通勤、買い物、通院などの移動手段となっている。

特記事項 合併前の田原町、赤羽根町、渥美町を跨ぐ利用者と率。推定値。 朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。・日中は高齢者の渥美病院等への通院や外国人住民の田原市街地での買い物で利用されている。

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報

運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△) 沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)

3. R6年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
B	事業評価を踏まえた取組	・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシの作成。 ・観光客向けに、便利でお得な企画切符(デジタルチケット)の造成	市町村名：豊橋市	市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0
改善点とした事項(△) 事業者、市、地元自治会等が連携し利用促進に努める。			市内の公共交通情報を掲載した公共交通マップを作成し、市内主要施設、観光案内所、公共交通イベント等での配布、HP掲載等で周知を行った。	・地域公共交通計画改定 ・市内高校生への通学定期券の購入助成を継続実施 ・多言語チラシ作成(3か国追加 計5か国語)		
関係者の連携等(△□) 必要な情報交換を実施。	その他の	東三河地域公共交通活性化協議会と連携し、夏休み小学生50円バスと「公共交通をつかったオリジナルツアー大募集」などを実施。	東三河地域公共交通活性化協議会とも連携し、夏休み小学生50円バス、「公共交通をつかったオリジナルツアー募集」、「公共交通利用促進ポスター&川柳コンテスト」を実施した。	・パンフレットの作成、配布(全戸配布用・学生用) ・福祉回数券等の交付 ・免許返納者へ豊鉄バス元気バス(1年)引換券の交付 ・東三河地域公共交通活性化協議会連携事業実施 ・広報紙・イベント等でCPR		

4. 今後の課題

課題と認識している事項								
運営主体(△)		沿線市町村(□)						
この路線は、通学利用者が多くを占めており、沿線にある高校の学生数が減少しているため、年々、利用者が減少傾向になっていると感じている。バスでお出かけしていただけるようなPRが必要。	市町村名：	豊橋市	市町村名：	田原市(旧渥美町)	市町村名：	0	市町村名：	0
	公共交通の維持・強化、利便性を向上させ、新たな利用の創出及び定着化を図る必要がある。		・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いため運賃が高額。					
運行事業者(△)								

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組						
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)				
R7年度、R8年度に行う取組	・観光客向けに、便利でお得な企画切符の造成 ・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシや利用促進パンフレットの配布 ・令和7年3月に導入予定の交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る	市町村名：豊橋市	市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	
		交通系ICカード導入に向けた周知を効果的に行い、利用者の利便向上を図る。 MaaS推進によるデジタル環境の充実の取り組みを行う。	・市内高校生への通学定期券購入助成(令和元年9月～)を継続して実施する。助成額等を再検討する。 ・中学生・高校生対象の利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。 ・サイクルラックバス実証実験の実施			

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況に関しての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)				
目標	市町村名：豊橋市	市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	
	目標未記載	伊良湖本線の利用者数 R15:23.2万人(基準値R4:16.7万)			
自己評価	外出の増加、積極的な利用促進事業の実施したものの、生活交通確保計画における目標は未達となった。今後も運営主体及び関係自治体と連携した沿線施設の紹介や利用促進等を行い、新規の利用者の獲得を図っていく必要がある。	基準値の令和4年より上回っているが、目標までは達していない。			

7.補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)				
市町村名：豊橋市	市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	
フィーダー系統である豊鉄バス「三本木線」と豊橋市コミュニティバス「しおかぜバス」、「かわきたバス」に豊橋駅で接続している。	渥美病院・田原駅・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、令和5年度の利用者実績は100,998人となっている。			

通信欄	(この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)
-----	--

1. 補助システムの概要(△)

系統名		運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖本線(渥美病院田原駅前保美)		豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	渥美病院～保美	19.9 km	6.9 回	田原市(旧渥美町) 0 0 0
細系統	江比間経由	〃	〃	渥美病院～保美	20.5 km	4.4 回	
	江比間経由	〃	〃	田原駅前～保美	19.3 km	2.4 回	
					km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)

<接続する系統>

豊橋鉄道渥美線

<接続される系統>

田原市ぐるりんバス (③市街地線、④童浦線、⑤サンデパルク線)、田原市ぐるりんミニバス (⑥表浜線、⑦中山線)

模式図(△□)

2. R6年度の運行状況

事業実施の適切性		《参考数値》 主要指標の推移(△)																																										
計画どおり運行されたか(△)		<table><tr><th>年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>年間利用者数【人】</td><td>94,127</td><td>63,045</td><td>49,525</td><td>56,637</td><td>53,344</td></tr><tr><td>平均乗車密度(実績)</td><td>3.6</td><td>4.9</td><td>3.7</td><td>4.0</td><td>4.0</td></tr><tr><td rowspan="2">輸送量</td><td>(計画)</td><td>50.7</td><td>45.9</td><td>25.2</td><td>34.3</td><td>23.8</td></tr><tr><td>(実績)</td><td>48.2</td><td>34.3</td><td>25.5</td><td>27.6</td><td>27.6</td></tr><tr><td>収支率(実績)</td><td>53.7%</td><td>72.1%</td><td>52.0%</td><td>53.5%</td><td>55.2%</td></tr></table>						年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	年間利用者数【人】	94,127	63,045	49,525	56,637	53,344	平均乗車密度(実績)	3.6	4.9	3.7	4.0	4.0	輸送量	(計画)	50.7	45.9	25.2	34.3	23.8	(実績)	48.2	34.3	25.5	27.6	27.6	収支率(実績)	53.7%	72.1%	52.0%	53.5%	55.2%
年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																							
年間利用者数【人】	94,127	63,045	49,525	56,637	53,344																																							
平均乗車密度(実績)	3.6	4.9	3.7	4.0	4.0																																							
輸送量	(計画)	50.7	45.9	25.2	34.3	23.8																																						
	(実績)	48.2	34.3	25.5	27.6	27.6																																						
収支率(実績)	53.7%	72.1%	52.0%	53.5%	55.2%																																							
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由																																											
A	補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、休休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。	評価の基準＜事業実施の適切性＞ A: 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合 B: 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、休休（一部区間の休休を含む）が生じた場合																																										
		評価の基準＜目標・効果達成状況＞ A: 年間目標利用者数を達成できた場合 B1: 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合 B2: 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合 C: 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合																																										

目標・効果達成状況			
評価	目標の達成状況(△)		運営主体の所見、理由分析、認識(△)
A	目標	50,670	利用者数は対目標値105.3%、対前年94.2%となった。他系統も含めた伊良湖本線全体では、前年に対して定期は110.2%、定期外は119.5%となり、定期外利用者が約2割増加していることから、通院や買い物等の普段使いの利用者が増加したと考えられる。
	実績	53,344	
	達成率	105.3%	
	要因	定期外利用者の増加。	
運行事業者の所見等(△)			市町村の所見、理由分析、認識(□)
			市町村名: 田原市(旧渥美町) 市町村名: 0
			新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が大きく減少していたが、通院や買い物利用の高齢者や外国人住民等の定期外利用者が戻ってきている。近年、増加傾向であるがコロナ禍以前には戻っていない。人口減少等の影響で朝夕の学生利用は引き続き減少傾向にあると考える。
			市町村名: 0 市町村名: 0

複数市町村を跨ぐ系統としての役割						
指標(市町村を跨いでの利用)		利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)			
市町村を跨ぐ利用者数(△)	4,605 人/月	旧町を跨いでの利用が利用者の多くを占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や、成章高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。	市町村名: 田原市(旧渥美町)	市町村名: 0	市町村名: 0	市町村名: 0
全利用者に占める率(△)	77.7 %		・朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。 ・日中は高齢者の渥美病院等への通院や外国人住民の田原市街地での買い物で利用されている。			
特記事項	合併前の田原町、渥美町を跨ぐ利用者と率。推定値。					

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)

3. R6年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
B	事業評価を踏まえた取組	・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシの作成。 ・観光客向けに、便利でお得な企画切符(デジタルチケット)の造成	市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0
改善点とした事項(△)			・地域公共交通計画改定 ・市内高校生への通学定期券の購入助成を継続実施 ・多言語チラシ作成(3か国追加 計5か国語)			
関係者の連携等(△□) 必要な情報交換を実施。			・パンフレットの作成、配布(全戸配布用・学生用) ・福祉回数券等の交付 ・免許返納者へ豊鉄バス元気バス(1年)引換券の交付 ・東三河地域公共交通活性化協議会連携事業実施 ・広報紙・イベント等でPR			

4. 今後の課題

課題と認識している事項							
運営主体(△)		沿線市町村(□)					
この路線は、通学利用者が多くを占めており、沿線にある高校の学生数が減少しているため、年々、利用者が減少傾向になっていると感じている。バスでお出かけしていただけるようなPRが必要。	市町村名： 田原市(旧渥美町)	市町村名：	0	市町村名：	0	市町村名：	0
	・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いため運賃が高額。						
運行事業者(△)							

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組						
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)				
R7年度、R8年度に行う取組	・観光客向けに、便利でお得な企画切符の造成 ・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシや利用促進パンフレットの配布 ・令和6年度末(R7.3)に導入予定の交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る	市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0	
		・市内高校生への通学定期券購入助成(令和元年9月～)を継続して実施する。助成額等を再検討する。 ・中学生・高校生対象の利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。 ・サイクルラックバス実証実験の実施				

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助システムの目標と評価

	沿線市町村(□)			
目標	市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0
自己評価	伊良湖本線の利用者数 R15:23.2万人(基準値R4:16.7万 基準値の令和4年より上回っているが、目標までは達していない。			

7.補助システムに接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)			
市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0
渥美病院・田原駅・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、令和5年度の利用者実績は100,998人となっている。			

通信欄	(この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)
※マクロを用いて集計しますので、セルの結合は絶対に変えないでください	